

普通預金規定(メールオーダー型)

1. 取扱店の範囲

普通預金(メールオーダー型)(以下、「この預金」といいます。)は取引店のほか当行本支店のどこの店舗でも預入れまたは払戻しができます。ただし、取引店以外での払戻しは、当行所定の手続きを行ったものに限りです。

2. 証券類の受入れ

- (1) この預金口座には、現金のほか、手形、小切手、配当金領収証その他の証券で直ちに取立のできるもの(以下、「証券類」といいます。)を受入れます。
- (2) 手形要件(とくに振出日、受取人)、小切手要件(とくに振出日)の白地はあらかじめ補充してください。当行は補充する義務を負いません。
- (3) 証券類のうち裏書、受取文言等の必要があるものはその手続きを済ませてください。
- (4) 手形、小切手を受入れるときは、複記の有無にかかわらず、所定の金額欄記載の金額によって取扱います。
- (5) 証券類の取立のため特に費用を要する場合には、店頭表示の代金取立手数料に準じてその取立手数料をいただきます。

3. 振込金の受入れ

- (1) この預金口座には、為替による振込金を受入れます。
- (2) この預金への振込について、振込通知の発信金融機関から重複発信等の誤発信による取消通知があった場合には、振込金の入金記帳を取消します。

4. 受入証券類の決済、不渡り

- (1) 証券類は、受入店で取立て、不渡償還期限の経過後その決済を確認したうえでなければ、受入れた証券類の金額にかかる預金の払戻しはできません。
- (2) 受入れた証券類が不渡りとなったときは預金になりません。この場合は直ちにその通知を届ける住所宛に発信するとともに、その金額を普通預金元帳から引落し、その証券類は取引店へ返却します。
- (3) 前項の場合には、あらかじめ書面による依頼を受けたものにかぎり、その証券類について権利保全の手続きをします。

5. 預金の払戻し

- (1) この預金を払戻すときは、当行所定の払戻請求書に届出の印章により押印して、通帳とともに提出してください。
- (2) 前項の払戻しの手続きに加え、当該預金の払戻しを受けることについて正当な権限を有することを確認するための本人確認書類の提示等の手続きを求めています。この場合、当行が必要と認めるときは、この確認ができるまでは払戻しを行いません。
- (3) 同日に数件の支払いをする場合にその総額が預金残高をこえるときは、そのいずれを支払うかは当行の任意とします。

6. 利息

この預金の利息は、毎日の最終残高(受入れた証券類の金額は決済されるまでこの残高から除く。)1円以上について付利単位を1円として、毎年2月と8月の当行所定の日に、店頭に表示する毎日の利率によって計算のうえこの預金に組み入れます。なお、利率は金融情勢に応じて変更します。

7. 届出事項の変更、通帳の再発行等

- (1) 通帳や印章を失ったとき、または、印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、ただちに書面によって取引店に届出てください。
- (2) 前項の届出前に生じた損害については、当行に過失がある場合を除き、当行は責任を負いません。
- (3) 通帳または印章を失った場合この預金の払戻し、解約または通帳の再発行は、当行所定の手続きをした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。
- (4) 通帳を再発行する場合には、当行所定の手数をいただきます。
- (5) 預金口座の開設等の際には、当行は、法令で定める本人確認等の確認を行います。この際に行う確認事項に変更があったときは、直ちに当行所定の方法によって届出てください。

8. 成年後見人等の届出

- (1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合は、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を取引店に届出てください。
- (2) 家庭裁判所の審判により、任意後見人監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を取引店に届出てください。
- (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見人監督人の選任がなされている場合には、前2項と同様に、直ちに書面によって取引店に届出てください。
- (4) 前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合には、直ちに書面によって取引店に届出てください。

9. 印鑑照合等

払戻請求書、諸届その他の書類に使用された印影を届出の印章と相当な注意をもって照合し、相違ないものと認め取扱いした場合は、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当行は責任を負いません。なお、預金者は、盗取された通帳を用いて行われた不正な払戻しの額に相当する金額について、次条により補てんを請求することができます。

10. 盗難通帳による払戻し等

- (1) 盗取された通帳を用いて行われた不正な払戻し(以下、本条において「当該払戻し」といいます。)については、次の各号のすべてに該当する場合、預金者は当行に対して当該払戻しの額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額の補てんを請求することができます。
 - ① 通帳の盗難に気づいてからすみやかに、当行への通知が行われていること
 - ② 当行の調査に対し、預金者より十分な説明が行われていること
 - ③ 当行に対し、警察署に被害届を提出していることその他の盗難にあったことが推測される事実を確認できるものを示していること
- (2) 前項の請求がなされた場合、当該払戻しが預金者の故意による場合を除き、当行は、当行へ通知が行われた日の30日(ただし、当行に通知することができないやむを得ない事情があることを預金者が証明した場合は、30日にその事情が継続している期間を加えた日数とします。)前の日以降に盗取された預金の額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額(以下「補てん対象額」といいます。)を前条本文にかかわらず補てんするものとします。ただし、当該払戻しが行われた日については、当行が善意無過失であることおよび預金者に過失(重過失を除く)があることを当行が証明した場合には、当行は補てん対象額の4分の3に相当する金額を補てんするものとします。
- (3) 前2項の規定は、第1項にかかる当行への通知が、この通帳が盗取された日(通帳が盗取された日が明らかでないときは、盗取された通帳を用いて行われた不正な預金払戻しが最初に行われた日。)から、2年を経過する日後に行われた場合には、適用されないものとします。
- (4) 第2項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当することを当行が証明した場合には、当行は補てんしません。
 - ① 当該払戻しが行われたことについて当行が善意かつ無過失であり、かつ、次のいずれかに該当すること
A 当該払戻しが預金者の重大な過失により行われたこと
B 預金者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族その他の同居人、または家事使用人によって行われたこと
C 預金者が、被害状況についての当行に対する説明において、重要な事項について偽りの説明を行ったこと
 - ② 通帳の盗取が、戦争、暴動等による著しい社会秩序の混乱に乘じまたはこれに付随して行われたこと
- (5) 当行が当該預金について預金者に払戻しを行っている場合には、この払戻しを行った額の限度において、第1項にもとづく補てんの請求には応じることができません。また、預金者が、当該払戻しを受けた者から損害賠償または不当利得返還を受けた場合も、その受けた限度において同様とします。
- (6) 当行が第2項の規定にもとづく補てんを行った場合に、当該補てんを行った金額の限度において、当該預金にかかる払戻請求権は消滅します。
- (7) 当行が第2項の規定により補てんを行ったときは、当行は、当該補てんを行った金額の限度において、盗取された通帳により不正な払戻しを受けた者その他の第三者に対して預金者が有する損害賠償請求権または不当利得返還請求権を取得するものとします。

11. 譲渡・買入れ等の禁止

(1) この預金、預金契約上の地位その他この取引にかかわるいっさいの権利および通帳は、譲渡、買

入れその他第三者の権利を設定すること、または第三者に利用させることはできません。

- (2) 当行がやむを得ないものと認めて買入れを承諾する場合は、当行所定の書式により行います。

12. 取引の制限等

- (1) 当行は、預金者の情報および具体的な取引の内容等を適切に把握するため、当行が指定する情報(以下、「預金者情報等」といいます。)(以下、「預金者情報等」に変更があった場合には速やかに当行に届出てください。)
- (2) 前項の各種確認や資料の提出の求めに対し、預金者から正当な理由なく当行が指定した期限までに回答いただけない場合、預金者情報等に変更があったにもかかわらず届出がない場合、その他預金者が本規定に違反した場合は預金者情報等に関する預金者との取引を継続することが不適切であると当行が判断した場合には、入金・払戻し等の本規定にもとづく取引の一部を制限する場合があります。
- (3) 第1項の各種確認や資料の提出の求めに対する預金者の回答、具体的な取引の内容、預金者の説明内容およびその他の事情を考慮して、当行がマネー・ローディング、テロ資金供与、または経済制裁関係法令等への抵触のおそれがあると判断した場合には、入金、払戻し等の本規定にもとづく取引の一部を制限する場合があります。
- (4) 前2項に定めるいずれの取引の制限についても、預金者からの合理的な説明等にもとづき、取引の一部を制限した事由が解消されたときと当行が認める場合、当行は前2項にもとづく取引等の制限を解除します。

13. 解約等

- (1) この預金口座を解約する場合には、当行所定の請求書に届出の印章により押印して通帳とともに持参のうえ、当行本支店に申し出てください。ただし、取引店以外での解約は、当行所定の手続きを行ったものにかぎりです。
- (2) 次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。なお、通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当行が解約の通知を届出のあった氏名、住所にあてて発信した時に解約されたものとします。
 - ① この預金口座の名義人が存在しないことが明らかになった場合または預金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合
 - ② この預金の預金者が第11条第1項に違反した場合
 - ③ 当行が法令で定める本人確認等の確認を行うにあたって預金者について確認した事項および第12条第1項に定める預金者情報等の各種確認や提出された資料に関し、偽りがあることが明らかになった場合
 - ④ この預金がマネー・ローディング、テロ資金供与、経済制裁関係法令等に抵触する取引に利用され、またはそのおそれがあると合理的に認められる場合
 - ⑤ この預金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、またはそのおそれがあると認められる場合
 - ⑥ 預金者が口座開設時に申告した事項に虚偽の申告をしたことが判明した場合
 - ⑦ 上記①から⑥までの疑いがあるにもかかわらず、正当な理由なく当行からの確認の要請に応じない場合

- (3) 前項のほか、次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの預金口座を解約することができるものとします。
 - ① 預金者が、次のいずれかに該当すると認められた場合
A.暴力団員 B.暴力団員 C.暴力団準構成員 D.暴力団関係企業 E.総会屋等、社会運動等標榜ゴロ又は特殊知能暴力集団等 F.その他前各号に準ずる者
 - ② 預金者が、自ら又は第三者を利用して次の各号に該当する行為を行った場合
A.暴力的な要求行為 B.法的な責任を超えた不当な要求行為 C.取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為 D.風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて当行の信用を毀損し、又は当行の業務を妨害する行為 E.その他前各号に準ずる行為

- (4) この預金が、当行が別途表示する一定の期間預金者による利用がなく、かつ残高が一定の金額をこえることがない場合には、当行はこの預金取引を停止または、預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。また法令に基づく場合にも同様に行うものとします。
- (5) 前2項により、この預金口座が解約され残高がある場合、またはこの預金取引が停止されその解除を求める場合には、通帳を持参のうえ、取引店に申出てください。この場合、当行は相当の期間をおき、必要な書類等の提出または保証人を求めることがあります。

14. 通知等

- (1) 届出のあった氏名、住所にあてて当行が通知または送付書類を発送した場合には、延着または到達しなかったときでも通常到達すべき時に到達したものとみなします。

15. 保険事故発生時における預金者からの相殺

- (1) この預金は、当行に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、本条各項の定めにより相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当行に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当行に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。
 - (2) 相殺する場合の手続については、次によるものとします。
 - ① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充当の順序方法を指定のうえ、通帳に届出の印章を押印して直ちに当行に提出してください。ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当行に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。
 - ② 前号の充当の指定のない場合には、当行の指定する順序方法により充当いたします。第1号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当行は滞滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。
 - ③ 相殺する場合の借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日までとして、利率、利率は当行の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱いについては当行の定めによるものとします。
 - (4) 相殺する場合の外国為替相場については当行の計算実行時の相場を適用するものとします。
 - (5) 相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときは、その定めによるものとします。ただし、借入金の期日前弁済等について当行の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

16. 反社会的勢力との取引拒絶

この預金口座は預金者が第13条(3)①A乃至F及び②A乃至Eのいずれにも該当しない預金口座に利用することができ、第13条(3)①A乃至F及び②A乃至Eの一にでも該当する場合には当行はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

17. 規定の改定

本規定は、法令の変更、監督官庁の指示その他の必要性が生じた場合には改定されることがあります。本規定を改定する場合は、当行本支店の窓口または当行ホームページにおいて、改定内容を記載して告知します。

18. 規定の準用

本規定に定めのない事項については、当行諸規定所定の方法により取扱います。

定期預金規定(メールオーダー用)

1. 定義

- (1) 定期預金(メールオーダー型)(以下、「この預金」といいます。)は、郵送(メールオーダー)により口座作成される定期預金で、新規に普通預金(メールオーダー型)と同時に作成される預金です。
- (2) この預金は、「スーパー定期(自動継続方式)」、「大口定期預金(自動継続方式)」、「100万円上限定期預金(ミリオくん)」、「スーパー定期(自動継続方式・インターネット専用)」、「大口定期預金(自動継続方式・インターネット専用)」もしくは「100万円上限定期預金(ミリオくん)(インターネット専用)」のいずれかの定期預金を選択いただけます。
- なお、「ミリオくん2)については、郵送(メールオーダー用)による口座開設申込みはできません。
- (3) この預金のうち、(インターネット専用)の商品に関しては、通帳、証書等は発行いたしません。なお、有通帳に変更することはできません。

2. 自動継続

- (1) この預金は当行所定の方法に基づき通帳記載の満期日にその預金額に応じて、前回と同一期間の定期預金に自動的に継続します。継続された預金についても同様とします。
- (2) この預金の継続後の利率は、継続日における当行所定の利率とします。ただし、この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。
- (3) 継続を停止するとき、当行所定の書式により、届出の印章により押印して、通帳とともに当行に提出して下さい。

3. 預金の支払時期

この預金は、振込みによる金銭が、当行の指定した預金口座に入金された日付で作成いたします。ただし、申込書記載の金額に満たない場合は預金お預入れとはみなしません。

4. 証券類の受け入れ

手形、小切手、配当金領収証その他有価証券でのお預かりはいたしません。

5. 利息

- (1) この預金の利息は、預入日(継続をしたときはその継続後の継続日)から満期日の前日までの日数(以下、「約定日数」といいます。)および通帳記載の利率(継続後の預金については第2条第2項の利率。以下、これらを「約定利率」といいます。)によって計算します。
- (2) この預金の利息の支払いは、あらかじめ指定されたところに従い、解約時に元金と利息とともにお客さま名義の当行普通預金口座へ入金することにより支払います。
- (3) この預金を満期日前に解約する場合には、その利息(以下、「期日前解約利息」といいます。)は、預入日(継続をしたときは最後の継続日。以下同じです。)から解約日の前日までの日数および期日の前日までの期日前解約利率によって計算し、この預金とともに支払います。
- なお、期日前解約時に適用する利率については、金融情勢の変化に応じて変更することがあります。この場合の新利率の適用は、当行が定めた日からとします。

期日前解約利率

解約日時時点で の預入期間	当初の預入期間		
	3年未満	3年	3年超5年以下
6ヶ月未満	解約日における普通預金利率		
6ヶ月以上1年未満	約定利率×50%	約定利率×40%	約定利率×10%
1年以上2年未満	約定利率×70%	約定利率×50%	約定利率×30%
2年以上3年未満	約定利率×70%	約定利率×70%	約定利率×40%
3年以上4年未満			約定利率×50%
4年以上5年未満			約定利率×70%

(4) この預金の付利単位は1円とし、1年を365日として日割で計算します。

6. 預金の解約

- (1) この預金を解約するときは、当行所定の書式にて、届出の印章により押印して、通帳とともに取引店(本店)に提出して下さい。
- (2) 前項の払戻し手続きに加え、当該預金の払戻しを受けることについて正当な権限を有することを確認するための本人確認書類の提示等の手続きを求めています。この場合、当行が必要と認めるときはこの確認ができるまで払戻しを行いません。
- (3) 次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。なお、通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当行が解約の通知を届出のあった氏名、住所において発信した時に解約されたものとします。
- ① この預金口座の名義人が存在しなくなった場合または預金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合
- ② この預金の預金者が第11条第1項に違反した場合
- ③ この預金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、またはそのおそれがあると認められる場合
- ④ 預金者が印鑑届等に記載した事項に虚偽の申告をしたことが判明した場合。
- ⑤ 当行が法令で定める本人確認等の確認を行うにあたって、預金者について確認した事項に関し、虚偽が明らかになった場合
- (4) 前項のほか、次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの預金口座を解約することができます。

- ① 預金者が、次のいずれかに該当すると認められた場合
A. 暴力団 B. 暴力団員 C. 暴力団準構成員 D. 暴力団関係企業
E. 総会屋等、社会運動等標榜ゴロ又は特殊知能暴力集団等
F. その他前各号に準ずる者
- ② 預金者が、自ら又は第三者を利用して次の各号に該当する行為を行った場合
A. 暴力的な要求行為 B. 法的な責任を超えた不当な要求行為
C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
D. 風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて当行の信用を毀損し、又は当行の業務を妨害する行為
E. その他前各号に準ずる行為

7. 届出事項の変更、通帳の再発行等

- (1) 通帳や印章を失ったとき、または、印章、名称、住所その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって取引店(本店)に届け出てください。この届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。
- (2) 通帳または印章を失った場合のこの預金の元金金の支払いまたは通帳の再発行は、当行所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。
- (3) 通帳を再発行する場合には、当行所定の手数料をいただきます。
- (4) 預金口座の開設等の際には、当行は、法令で定める本人確認等の確認を行います。この際に行う確認事項に変更があったときは、直ちに当行所定の方法によって届け出てください。

8. 成年後見人等の届出

- (1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を取引店(本店)に届け出てください。
- (2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を取引店(本店)に届け出てください。
- (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前2項と同様に、直ちに書面によって取引店(本店)に届け出てください。
- (4) 前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様に、直ちに書面によって取引店(本店)に届け出てください。
- (5) 前4 項届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。

9. 印鑑照合等

払戻請求書、諸届その他の書類に使用された印影を届出の印章と相当の注意をもって照合し、相

違いないものと認めて取り扱いましたうは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があつてもそのために生じた損害については、当行は責任を負いません。

10. 盗難通帳による払戻し等

- (1) 盗取された通帳を用いて行われた不正な払戻し(以下、本条において「当該払戻し」という。)については、次の各号のすべてに該当する場合、預金者は当行に対して当該払戻しの額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額の補てんを請求することができます。
- ① 通帳の盗難に気づいてからすみやかに、当行への通知が行われていること
- ② 当行の調査に対し、預金者より十分な説明が行われていること
- ③ 当行に対し、警察署に被害届を提出していることその他の盗難にあったことが推測される事実を確認できるものを示していること
- (2) 前項の請求がなされた場合、当該払戻しが預金者の故意による場合を除き、当行は、当行へ通知が行われた日の30日(ただし、当行に通知することができないやむを得ない事情があることを預金者が証明した場合は、30日にその事情が継続している期間を加えた日数とします。)前日以降にされた払戻しの額およびこれにかかる手数料・利息に相当する金額(以下「補てん対象額」といいます。)を前条本文にかかわらず補てんするものとします。ただし、当該払戻しが行われたことについて、当行が善意無過失であることおよび預金者に過失(重過失を除く)があることを当行が証明した場合には、当行は補てん対象額の4分の3に相当する金額を補てんするものとします。
- (3) 前2項の規定は、第1項にかかる当行への通知が、この通帳が盗取された日(通帳が盗取された日が明らかでないときは、盗取された通帳を用いて行われた不正な預金払戻しが最初に行われた日。)から、2年を経過する日以後に行われた場合には、適用されないものとします。
- (4) 第2項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当することを当行が証明した場合には、当行は補てんしません。
- ① 当該払戻しが行われたことについて当行が善意かつ無過失であり、かつ、次のいずれかに該当すること
- A 当該払戻しが預金者の重大な過失により行われたこと
- B 預金者の配偶者、二親等内の親族、同居の親族その他の同居人、または家事使用人によって行われたこと
- C 預金者が、被害状況についての当行に対する説明において、重要な事項について偽りの説明を行ったこと
- ② 通帳の盗取が、戦争、暴動等による著しい社会秩序の混乱に乗じまたはこれに付随して行われたこと
- (5) 当行が当該預金について預金者に払戻しを行っている場合には、この払戻しを行った額の限度において、第1項にもつづき補てんの請求には応じることができません。また、預金者が、当該払戻しを受けた者から損害賠償または不当利得返還を受けた場合も、その受けた限度において同様とします。
- (6) 当行が第2項の規定にもつづき補てんを行った場合に、当該補てんを行った金額の限度において、当該預金にかかる払戻請求権は消滅します。
- (7) 当行が第2項の規定により補てんを行ったときは、当行は、当該補てんを行った金額の限度において、盗取された通帳により不正な払戻しを受けた者その他の第三者に対して預金者が有する損害賠償請求権または不当利得返還請求権を取得するものとします。

11. 譲渡、買入れの禁止

- (1) この預金および通帳は、譲渡または買入れすることはできません。
- (2) 当行がやむをえないものと認めて買入を承諾する場合には、当行所定の書式により行います。

12. 保険事故発生時における預金者からの相談

- (1) この預金は、満期日が未到来であっても、当行に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、当行に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したものと、相殺することができます。なお、この預金に、預金者の当行に対する債務を担保とするため、もしくは第三者の当行に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合には同様の取り扱いとします。
- (2) 前項により相殺する場合には、次の手続によるものとします。
- ① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充当の順序方法を指定するうえ、通帳に届出の印章を押印して直ちに当行に提出してください。
- ② 第1号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当該債務が第三者の当行に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。
- ③ 前号の充当の指定のない場合には、当行の指定する順序方法により充当いたします。
- ④ 第1項による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当行は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。
- (3) 第1項により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。
- ① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日の前日日までとして、利率は約定利率を適用するものとします。
- ② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日までとして、利率、利率は当行の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取り扱いについては借入金等の約定にかかわらず、当行が負担するものとします。
- (4) 第1項により相殺する場合の外国為替相場については当行の計算実行時の相場を適用するものとします。
- (5) 第1項により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当行の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

13. 反社会的勢力との取引拒絶

この預金口座は預金者が第6条(4)①A乃至F及び②A乃至Eのいずれにも該当しない場合に利用することができ、第6条(4)①A乃至F及び②A乃至Eの一にでも該当する場合には当行はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

14. 規定の改定

本規定は、法令の変更、監督官庁の指示、その他の必要性が生じた場合には、改定されることがあります。本規定を改定する場合は、当行本支店の窓口または当行ホームページにおいて、改定内容を記載して告知します。

以上



20170922

スーパー定期(自動継続方式・インターネット専用)規定

1. 定義

- (1) スーパー定期(自動継続方式・インターネット専用) (以下、「この預金」といいます。)は、 当行所定のインターネットバンキングにおける普通預金からの振替、 郵送による口座開設〔定期預金(メールオーダー用)〕 申込み、 または当行ホームページからの口座開設〔定期預金(オンライン専用型)〕 申込みによって作成された定期預金をいいます。
- (2) この預金は、 自動継続方式(元加継続型・利払型) のみのお取扱いとなります。
- (3) この預金に関しては、 通帳、 証書等は発行いたしません。 なお、 有通帳に変更することはできません。

2. 自動継続

- (1) この預金は、 満期日に前回と同一の期間のスーパー定期に自動的に継続します。 継続された預金についても同様とします。
- (2) この預金の継続後の利率は、 継続日における当行所定の利率とします。 ただし、 この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、 その定めによるものとします。

3. 証券類の受け入れ

小切手その他の証券類の受け入れはお取扱いできません。 インターネットバンキングによる普通預金口座からの振替のみお取扱いが可能です。

4. 利息

- (1) この預金の利息は、 預入日(継続をしたときはその継続日。 以下同じです。)から満期日の前日までの日数(以下、「約定期数」といいます。)およびインターネットバンキングに表示している利率(継続後の預金については第2条第2項の利率。 以下、 これらを「約定利率」といいます。)によって計算し、 満期日に支払います。
- (2) この預金を満期日前に解約する場合には、 その利息(以下、「期日前解約利息」といいます。)は、 預入日(継続をしたときは最後の継続日。 以下同じです。)から解約日の前日までの日数および次の預入期間に応じた期日前解約利率によって計算し、 この預金とともに支払います。 なお、 期日前解約時に適用する利率については、 金融情勢の変化に応じて変更することがあります。 この場合の新利率の適用は、 当行が定めた日からとします。

期日前解約利率

解約日時点での 預入期間	当初の預入期間		
	3年未満	3年	3年超5年以下
6ヶ月未満	解約日における普通預金利率		
6ヶ月以上1年未満	約定利率×50%	約定利率×40%	約定利率×10%
1年以上2年未満	約定利率×70%	約定利率×50%	約定利率×30%
2年以上3年未満	約定利率×70%	約定利率×70%	約定利率×40%
3年以上4年未満			約定利率×50%
4年以上5年未満			約定利率×70%

- (3) この預金の付利単位は1円とし、 1年を365日として日割で計算します。

5. 預金の解約

- (1) この預金を解約するときは、 お客さまご自身でインターネットバンキングにてお手続き下さい。
- (2) この預金を窓口にて解約するときは、 当行所定の書類に届出の印章(または署名)により押印(または署名)して出金登録口座の預金通帳とSBJダイレクトカードとともに取扱店に提出してください。 なお、 窓口にて署名の照合を行う場合は、 PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。
- (3) 前項の払戻しの手続きに加え、 当該預金の払戻しを受けることについて正当な権限を有することを確認するための本人確認書類の提示等の手続きを求めることがあります。 この場合、 当行が必要と認めるときはこの確認ができるまで払戻しを行います。
- (4) 次の各号の一にでも該当した場合には、 当行はこの預金取引を停止し、 または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。 なお、 通知により解約する場合、 到達のいかんにかかわらず、 当行が解約の通知を届出のあった氏名、 住所にあてて発信した時に解約されたものとします。
 - ① この預金口座の名義人が存在しないことが明らかになった場合または預金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合
 - ② この預金の預金者が第9条第1項に違反した場合
 - ③ この預金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、 またはそのおそれがあると認められる場合
 - ④ 預金者が印鑑届等に記載した事項に虚偽の申告をしたことが判明した場合
 - ⑤ 当行が法令で定める本人確認等の確認を行うにあたって、 預金者について確認した事項に関し、 虚偽が明らかになった場合
- (5) 前項のほか、 次の各号の一にでも該当した場合には、 当行はこの預金口座を解約することができるものとします。
 - ① 預金者が、 次のいずれかに該当すると認められた場合 A. 暴力団 B. 暴力団員 C. 暴力団準構成員 D. 暴力団関係企業 E. 総会屋等、 社会運動等標榜ゴロ又は特殊知能暴力集団等 F. その他前各号に準ずる者
 - ② 預金者が、 自ら又は第三者を利用して次の各号に該当する行為を行った場合 A. 暴力的な要求行為 B. 法的な責任を超えた不当な要求行為 C. 取引に関して、 脅迫的な言動をし、 又は暴力を用いる行為 D. 風説を流布し、 偽計を用い又は威力を用いて当行の信用を毀損し、 又は当行の業務を妨害する行為 E. その他前各号に準ずる行為

6. 届出事項の変更等

- (1) 印章を失ったとき、 または、 印章、 名称、 住所、 署名その他の届出事項に変更があったときは、 直ちに書面によって取引店に届け出てください。 この届出の前に生じた損害については、 当行は責任を負いません。
- (2) 印章を失った場合のこの預金の元金金の支払いは、 当行所定の手続きをした後に行います。 この場合、 相当の期間をおき、 また、 保証人を求めることがあります。
- (3) 預金口座の開設等の際には、 当行は、 法令で定める本人確認等の確認を行います。 この際に行う確認事項に変更があったときは、 直ちに当行所定の方法によって届出てください。

7. 成年後見人等の届出

- (1) 家庭裁判所の審判により、 補助・保佐・後見が開始された場合には、 直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を取引店に届け出てください。
- (2) 家庭裁判所の審判により、 任意後見監督人の選任がなされた場合には、 直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を取引店に届け出てください。
- (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、 または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、 前2項と同様に、 直ちに書面によって取引店に届け出てください。
- (4) 前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様に、 直ちに書面によって取引店に届け出てください。
- (5) 前4項の届出の前に生じた損害については、 当行は責任を負いません。

8. 印鑑照合等

- (1) 払戻請求書、 諸届その他の書類に使用された印影(または署名)を届出の印章(または署名)と相当の注意をもって照合し、 相違ないものと認めて取り扱いましたらうは、 それらの書類につき偽造、 変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、 当行は責任を負いません。 なお、 窓口にて署名の照合を行う場合は、 PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。

- (2) この預金を当行ホームページからの口座開設〔定期預金(オンライン専用型)〕 申込みによって開設した場合、 または普通預金(インターネット専用)からの振替により作成した場合は、 届出印の届出は不要です。

9. 譲渡、 買入れの禁止

- (1) この預金は、 譲渡または買入れすることはできません。
- (2) 当行がやむをえないものと認めて買入れを承諾する場合には、 当行所定の書式により行います。

10. 保険事故発生時における預金者からの相談

- (1) この預金は、 満期日が未到来であっても、 当行に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、 当行に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したもものとして、 相殺することができます。 なお、 この預金に、 預金者の当行に対する債務を担保とするため、 もしくは第三者の当行に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取り扱いとします。
- (2) 前項により相殺する場合には、 次の手続によるものとします。
 - ① 相殺通知は書面によるものとし、 複数の借入金等の債務がある場合には充当の順序方法を指定のうえ、 届出の印章(または署名)を押印(または署名)して直ちに当行に提出してください。 なお、 窓口にて署名の照合を行う場合は、 PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。

ただし、 この預金で担保される債務がある場合には、 当該債務または当該債務が第三者の当行に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

- ② 前号の充当の指定のない場合には、 当行の指定する順序方法により充当いたします。
- ③ 第1号による指定により、 債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、 当行は遅滞なく異議を述べ、 担保・保証の状況等を考慮して、 順序方法を指定することができます。

- (3) 第1項により相殺する場合の利息等については、 次のとおりとします。

- ① この預金の利息の計算については、 その期間を相殺通知が当行に到達した日の前日までとして、 利率は約定利率を適用するものとします。

- ② 借入金等の債務の利息、 割引料、 遅延損害金等の計算については、 その期間を相殺通知が当行に到達した日までとして、 利率、 料率は当行の定めによるものとします。 また、 借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取り扱いについては借入金等の約定にかかわらず、 当行が負担するものとします。

- (4) 第1項により相殺する場合の外国為替相場については当行の計算実行時の相場を適用するものとします。

- (5) 第1項により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときは、 その定めによるものとします。 ただし、 借入金の期限前弁済等について当行の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

11. 反社会的勢力との取引拒絶

この預金口座は預金者が第5条(5)①A乃至F及び②A乃至Eのいずれにも該当しない場合に利用することができ、 第5条(6)①A乃至F及び②A乃至Eの一にでも該当する場合には当行はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

12. 規定の改定

本規定は、 法令の変更、 監督官庁の指示その他の必要性が生じた場合には、 改定されることがあります。 本規定を改定する場合は、 当行本支店の窓口または当行ホームページにおいて、 改定内容を記載して告知します。

以上



20160808

大口定期預金(自動継続方式・インターネット専用)規定

1. 定義

- (1) 大口定期預金(自動継続方式・インターネット専用)(以下、「この預金」といいます。))は、当行所定のインターネットバンキングにおける普通預金からの振替、郵送による口座開設〔定期預金(メールオーダー用)〕申込み、または当行ホームページからの口座開設〔定期預金(オンライン専用型)〕申込みによって作成された大口定期預金をいいます。
- (2) この預金は、自動継続方式(元加継続型・利払型)のみのお取扱いとなります。
- (3) この預金に関しては、通帳、証書等は発行いたしません。なお、有通帳に変更することはできません。

2. 自動継続

- (1) この預金は、満期日に前回と同一の期間の大口定期預金に自動的に継続します。継続された預金についても同様とします。
- (2) この預金の継続後の利率は、継続日における当行所定の利率とします。ただし、この預金の継続後の利率について別の定めをしたときは、その定めによるものとします。

3. 証券類の受け入れ

小切手その他の証券類の受け入れはお取扱いできません。インターネットバンキングによる普通預金口座からの振替のみお取扱いが可能です。

4. 利息

- (1) この預金の利息は、預入日(継続をしたときはその継続日。以下同じです。))から満期日の前日までの日数(以下、「約定日数」といいます。))およびインターネットバンキングに表示している利率(継続後の預金については第2条第2項の利率。以下、これらを「約定利率」といいます。))によって計算し、満期日に支払います。
- (2) この預金を満期日前に解約する場合には、その利息(以下、「期日前解約利息」といいます。))は、預入日(継続をしたときは最後の継続日。以下同じです。))から解約日の前日までの日数および次の預入期間に応じた期日前解約利率によって計算し、この預金とともに支払います。なお、期日前解約時に適用する利率については、金融情勢の変化に応じて変更することがあります。この場合の新利率の適用は、当行が定めた日からとします。

期日前解約利率

解約日時点での 預入期間	当初の預入期間		
	3年未満	3年	3年超5年以下
6ヶ月未満	解約日における普通預金利率		
6ヶ月以上1年未満	約定利率×50%	約定利率×40%	約定利率×10%
1年以上2年未満	約定利率×70%	約定利率×50%	約定利率×30%
2年以上3年未満	約定利率×70%	約定利率×70%	約定利率×40%
3年以上4年未満			約定利率×50%
4年以上5年未満			約定利率×70%

- (3) この預金の付利単位は1円とし、1年を365日として日割で計算します。

5. 預金の解約

- (1) この預金を解約するときは、お客さまご自身でインターネットバンキングにてお手続き下さい。
- (2) この預金を窓口にて解約するときは、当行所定の書類に届出の印章(または署名)により押印(または署名)して出金登録口座の預金通帳とS B Jダイレクトカードとともに取扱店に提出してください。なお、窓口にて署名の照合を行う場合は、PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。
- (3) 前項の払戻しの手続きに加え、当該預金の払戻しを受けることについて正当な権限を有することを確認するための本人確認書類の提示等の手続きを求めることがあります。この場合、当行が必要と認めるときはこの確認ができるまで払戻しを行いません。
- (4) 次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの預金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの預金口座を解約することができるものとします。なお、通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当行が解約の通知を届出のあった氏名、住所にあてて発信した時に解約されたものとします。
 - ① この預金口座の名義人が存在しないことが明らかになった場合または預金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合
 - ② この預金の預金者が第9条第1項に違反した場合
 - ③ この預金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、またはそのおそれがあると認められる場合
 - ④ 預金者が印鑑届等に記載した事項に虚偽の申告をしたことが判明した場合
 - ⑤ 当行が法令で定める本人確認等の確認を行うにあたって、預金者について確認した事項に関し、虚偽が明らかになったとき
 - ⑥ 前項のほか、次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの預金口座を解約することができるものとします。
 - ① 預金者が、次のいずれかに該当すると認められた場合 A. 暴力団 B. 暴力団員 C. 暴力団準構成員 D. 暴力団関係企業 E. 総会屋等、社会運動等標榜ゴロ又は特殊知能暴力集団等 F. その他前各号に準ずる者
 - ② 預金者が、自ら又は第三者を利用して次の各号に該当する行為を行った場合 A. 暴力的な要求行為 B. 法的な責任を超えた不当な要求行為 C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為 D. 風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて当行の信用を毀損し、又は当行の業務を妨害する行為 E. その他前各号に準ずる行為

6. 届出事項の変更等

- (1) 印章を失ったとき、または、印章、名称、住所、署名その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって取引店に届け出てください。この届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。
- (2) 印章を失った場合のこの預金の元利金の支払いは、当行所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。
- (3) 預金口座の開設等の際には、当行は、法令で定める本人確認等の確認を行います。この際に行う確認事項に変更があったときは、直ちに当行所定の方法によって届出てください。

7. 成年後見人等の届出

- (1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合には、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を取引店に届け出てください。
- (2) 家庭裁判所の審判により、任意後見監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人等の氏名その他必要な事項を取引店に届け出てください。
- (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見監督人の選任がなされている場合にも、前2項と同様に、直ちに書面によって取引店に届け出てください。
- (4) 前3項の届出事項に取消または変更が生じた場合にも同様に、直ちに書面によって取引店に届け出てください。

- (5) 前4項の届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。

8. 印鑑照合等

- (1) 払戻請求書、諸届その他の書類に使用された印影(または署名)を届出の印章(または署名)と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取り扱いましたらうえは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当行は責任を負いません。なお、窓口にて署名の照合を行う場合は、PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。
- (2) この預金を当行ホームページからの口座開設〔定期預金(オンライン専用型)〕申込みによって開設した場合、または普通預金(インターネット専用)からの振替により作成した場合は、届出印の届出は不要です。

9. 譲渡、買入れの禁止

- (1) この預金は、譲渡または買入れすることはできません。
- (2) 当行がやむをえないものと認めて買入れを承諾する場合には、当行所定の書式により行います。

10. 保険事故発生時における預金者からの相殺

- (1) この預金は、満期日が未到であっても、当行に預金保険法が定める保険事故が生じた場合には、当行に対する借入金等の債務と相殺する場合に限り当該相殺額について期限が到来したもとして、相殺することがあります。なお、この預金は、預金者の当行に対する債務を担保とするため、もしくは第三者の当行に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取り扱いとします。
- (2) 前項により相殺する場合には、次の手続によるものとします。
 - ① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充当の順序方法を指定のうえ、届出の印章(または署名)を押印(または署名)して直ちに当行に提出してください。なお、窓口にて署名の照合を行う場合は、PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。

ただし、この預金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当行に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。

- ② 前号の充当の指定のない場合には、当行の指定する順序方法により充当いたします。
- ③ 第1号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当行は遅滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。

- (3) 第1項により相殺する場合の利息等については、次のとおりとします。

- ① この預金の利息の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日の前日

までとして、利率は約定利率を適用するものとします。

- ② 借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日

までとして、利率、料率は当行の定めによるものとします。

また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取り扱いについては借入金等の約定にかかわらず、当行が負担するものとします。

- (4) 第1項により相殺する場合の外国為替相場については当行の計算実行時の相場を適用するものとします。

- (5) 第1項により相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期限前弁済等について当行の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

11. 反社会的勢力との取引拒絶

この預金口座は預金者が第5条(5)①A乃至F及び②A乃至Eのいずれにも該当しない場合に利用することができ、第5条(5)①A乃至F及び②A乃至Eの一にでも該当する場合には当行はこの預金口座の開設をお断りするものとします。

12. 規定の改定

本規定は、法令の変更、監督官庁の指示その他の必要性が生じた場合には、改定されることがあります。本規定を改定する場合は、当行本支店の窓口または当行ホームページにおいて、改定内容を記載して告知します。

以上



20160808